

基礎講座

緊急時に役立つ 「ユニセフの方針」と「日頃の支援活動」

ユニセフは大規模な災害が起こった時、水と衛生、子どもの保護や教育などの分野で、国連機関やNGO、被災国政府などとの調整役を担っています。支援が効率よく公平に行きわたるように、いち早く被災地を視察し、関係者と話し合い、必要な支援を手配するのです。ユニセフの方針や日頃行っている支援活動が、緊急時に大きな成果をあげるという事例を「イラン地震」を例にご紹介します。

日頃の支援活動が大きな力を発揮する

イランの地震で大いに役立ったのは、「子どもの心のケア」と「予防接種」のプログラムでした。地震で両親、またはどちらかの親を失ったり、家族と離れ離れになったりして、子どもたちは心に大きな傷を受けました。こうした子どもたちへの心のケアや保護は重要な課題です。ユニセフは地震の1カ月前に、イランの各州を代表する30人の専門家に、子どもの心のケアの研修を行ったばかりでした。研修を受けた専門家の多くが、地震後の子どもたちのケアを行いました。

また、予防接種でも大きな成果をあげました。緊急時には、はしかの流行でも子どもの命にかかわります。イランでは地震が起きる直前に、はしかと風疹の予防接種が実施され、予防接種率は90%にも達しました。予防接種のおかげで流行を防ぎ、子どもたちの命を守ることができたのです。

コミュニティとの信頼関係を大切にす

コミュニティとの信頼関係は、ユニセフの支援活動を行う時に非常に大切にされる方針ですが、特に緊急時には人びとを安心させるために重要です。

たとえば、学校の再開についての関係者の話し合いを、地域の人びとが聞くことができるように屋外で、立ち話で行ったりします。ユニセフの活動を理解してもらい、安心してもらうことにつながりますし、政府関係者が復興への意欲を持ち、責任を持って行動していることを示すことができます。

学校が再開され、元気に学校に通う子どもの姿は人びとを元気づけ、友だちとのふれあいは子どもたちの心をいやすことにつながります。ユニセフは緊急用教材文具セット「箱の中の学

校 (School in a Box)」を提供しました。被災した人びとが最も必要としている支援から始めることが一番大切なので、ユニセフは「できることから始める」という柔軟な姿勢をとっています。

テント内で教科書を読む少女。
通っていた学校は全壊した
UNICEF/HQ004-0001/ Shehzad
Noorani



アフガニスタンのカブールからバムに向けた緊急支援物資
UNICEF/Hamid Marashi
/Iran2003



幼稚園児にノートを手渡す。
ユニセフの支援によるテントで運営されている幼稚園にて
UNICEF/HQ04-2004/
Shehzad Noorani

スマトラ沖地震・津波の状況と緊急募金のお願い

23万人以上の死者・行方不明者を出したスマトラ沖地震・津波の復興支援を話し合う緊急首脳会議で、ユニセフは、4つの項目— ①子どもの命を守る、②家族と再会させる、③搾取からの保護、④心理面のサポートと学校の再開—を緊急支援の優先事項とするように訴えました。ユニセフは特に子どもを守る活動を通して、被災国の復興に向けての努力を支援していきます。ユニセフは物資を届けるだけでなく、子どもを保護し、治療やさまざまな支援を受けられるように「子どもに優

しいセンター」などを設置しています。詳細は随時、当協会のホームページでお伝えしております。みなさまからの温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

スマトラ沖地震・津波緊急募金

郵便振替：00110-5-79500

口座名義：財団法人 日本ユニセフ協会

通信欄に「スマトラ」と記入してください

* 送金手数料は免除となります